

大会名 トーマスカップ 第32回 東京都選抜6年生サッカー大会

日時 11月26日(土) 11月27日(日) 会場 府中朝日グラウンド

東京都少年サッカー連 委員長 高山 清
技術指導部長 井上 雅志
文責 技術指導部 斎藤 拓

結果概要

優勝	第10ブロック	準優勝	第2ブロック
第3位	第6ブロック	第3位	第11ブロック

	試合数	得点数	1試合当たり得点数
2016年	50	194	3.88

講評 東京都少年サッカー連盟技術指導部が目指す理想の選手育成のために

①観て判断する

プレッシャーがゆるい中ではほとんどの選手が、優先順位を意識した中で【観て判断】出来ておりファーストコントロールにも工夫がみられボールを簡単に失う場面は少なかった。一方で、プレッシャーが厳しい中では【観る】ことが出来ずに足元に止めてしまい選択肢を持ってないコントロールになりボールを失う場面が多かった。厳しいプレッシャーの中でも優先順位を意識して【観て判断する】ためにボールがないときの準備はもちろん、特に日頃のトレーニングから本気でボールを奪いに行くことを習慣化させて行く必要があると改めて感じた。また、オフの選手がボール保持者の状況を観てサポートをすることも課題があると感じた。

②判断を伴ったテクニックの発揮をする（ファーストタッチの質・プレーの選択）

ゴール前のプレッシャーが厳しい中でもファーストタッチからフィニッシュへ持ち込むなど良いプレーも観られたが、シュートを打ち分けるためのコントロールの質には課題があった。また、ファーストタッチが足元に入ってしまうヘッドダウンしてしまう選手・選択肢を多く持たないコントロールをしてしまう選手も見受けられた。仕掛けて局面を開ける選手も多かった。ただ、常にトップスピードでドリブルをしてボールを失う選手も多く、ドリブルスピードのコントロールは今後の課題である。

③攻守に関わり続ける

パスを出した後、もう一度ボールを受けるために動く選手・アプローチを連続で行う選手などプレーを連続して行なう選手は非常に多かった。ただ、自分のタイミングで関わろうとする選手が多いため、あまり効果的なサポートになっていない場面もあった。ボール保持者の状況を観て関わり、効果的なサポートが出来るようになっていくことは今後の課題である。また、守備においてもボール保持者の状況など観て、常に正しいポジショニングをとり続けていくことも課題であると感じた。

④積極的にコミュニケーションできる

ボール受ける選手に対して『ターン』などの声を掛ける選手・ボールを要求する声・ミス後のポジティブな声かけを多くの選手が出せていた。また、ゴールキーパー、ディフェンスの選手からはボールを奪うための具体的な指示も出ていた。特にゴールキーパーは常にディフェンスラインへの指示を出しながらプレー出来ていた。

⑤リスペクトの心をもてる

点差が開いても最後まで『勝利』を諦めないでプレーする選手が多くみられた。また、ファールをしてしまった相手に対して、手を差し伸べる場面など相手を思いやる選手が非常に多く、【対戦相手＝サッカー仲間】という思いが広がっていることを感じる事が出来た。レフェリーのジャッジに対しても尊重することを忘れずにプレー出来ていた。

総評

【シンプルにゴールを目指す攻撃・前線から積極的にボールを奪いに行く守備をする】ブロックが多く、非常に見応えのある試合が多い大会であった。また、点差の開いた試合も数試合あったが、第1ピリオド～第3ピリオドまで非常に拮抗したレベルでの戦いが多かった。その中で、選手一人一人のテクニック（止める・蹴る・運ぶ）は確実に、高くなってきていると感じた。特に、【観る】ことで多くの選択肢を持ってプレー出来る選手が多く、簡単にボールを奪われる選手は減ってきていた。ただ、より厳しいプレッシャーの中でテクニックを発揮するためには、常に優先順位を意識した中で【観ること・観ておくこと】を習慣化していかなければならないと感じた。